

西之島の火山活動解説資料（平成 27 年 2 月）

気象庁地震火山部
火山監視・情報センター

海上保安庁等の観測によると、噴火による噴石等の堆積や溶岩の流出が継続し、新たな陸地の拡大が続いています。

西之島では、今後も新たに形成された陸地にある火口で噴火活動が継続すると考えられます。また、西之島周辺の海底で噴火が発生する可能性も引き続き考えられ、噴火による影響が海上まで及んだ場合、弾道を描いて飛散する大きな噴石¹⁾や、水面を高速で広がるベースサージ²⁾等の影響が概ね 2 km の範囲に及ぶおそれがありますので、西之島の中心から概ね 4 km 以内では噴火に警戒してください。

平成 27 年 2 月 24 日に火口周辺警報(入山危険)及び火山現象に関する海上警報を切り替えました。その後、警報事項に変更はありません。

活動概況

< 2 月 23 日の状況 (図 3 ~ 5) >

海上保安庁が実施した上空からの観測によると、第 7 火口で間欠的に火山灰を含む灰褐色の噴煙とともに溶岩片を噴出するストロンボリ式噴火が継続していました。噴煙は白色から灰色で、高さ約 1,200m に達していました(図 3)。第 7 火口の火砕丘は、噴火活動に伴う火砕物により成長していましたが、噴火口の直径は前回(2014 年 12 月 25 日)とほぼ同じでした(図 4)。溶岩流は島の東側に流出しているのが確認されました。

新たな陸地の大きさは、東西方向に約 1,960m、南北方向は約 1,800m、面積は約 2.45 km²(前回 2014 年 12 月 25 日: 約 2.29 km²)でした(図 5)。

変色水は、黄緑色から褐色で西之島の南側を除く海岸線付近で分布し、北側及び西側の海岸線の変色水は濃い褐色でした。また、西之島から北東方向へ幅約 700m 長さ約 1,000m 及び南東方向へ幅約 1,000m 長さ 1,500m で薄い黄緑色の変色水が分布しているのが確認されました。

上記の他に海上自衛隊等の観測により、噴火及び溶岩流の流出が継続し、新たに形成された陸地の拡大が確認されています。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ(<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.htm>)でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料(平成 27 年 3 月分)は平成 27 年 4 月 8 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、海上保安庁、海上自衛隊及び独立行政法人産業技術総合研究所のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000(行政界・海岸線)』を使用しています(承認番号: 平 26 情使、第 578 号)



図1 伊豆・小笠原諸島の活火山分布及び西之島の位置図

西之島は、東京の南方約 1000km、父島から西に約 130km に位置します。

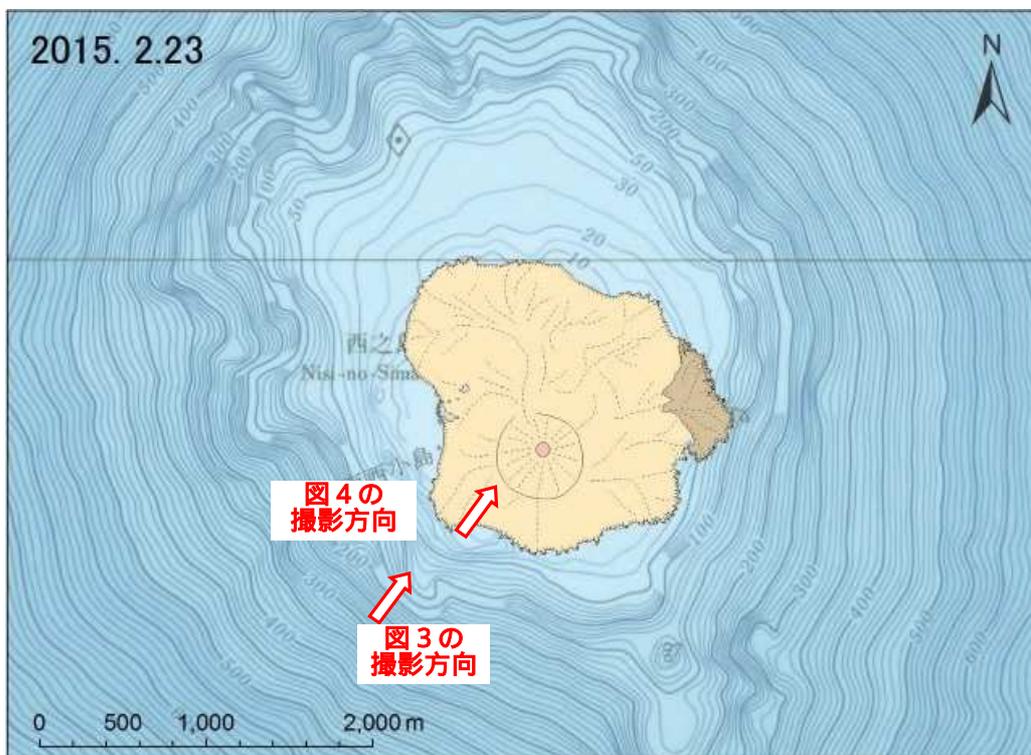


図2 西之島 主な撮影方向
西之島地形図（海上保安庁作成）に撮影方向を追記。



図3 西之島 噴火の状況(2月23日11時07分 南西方向から撮影・海上保安庁提供)
第7火口で間欠的に火山灰を含む灰褐色の噴煙とともに溶岩片を噴出するストロンボリ式噴火が継続していました



図4 西之島 第7火口付近の状況(2月23日11時07分 南西方向から撮影・海上保安庁提供)
火砕丘は、噴火活動により成長していましたが、噴火口の直径は前回(2014年12月25日)とほぼ同じでした。

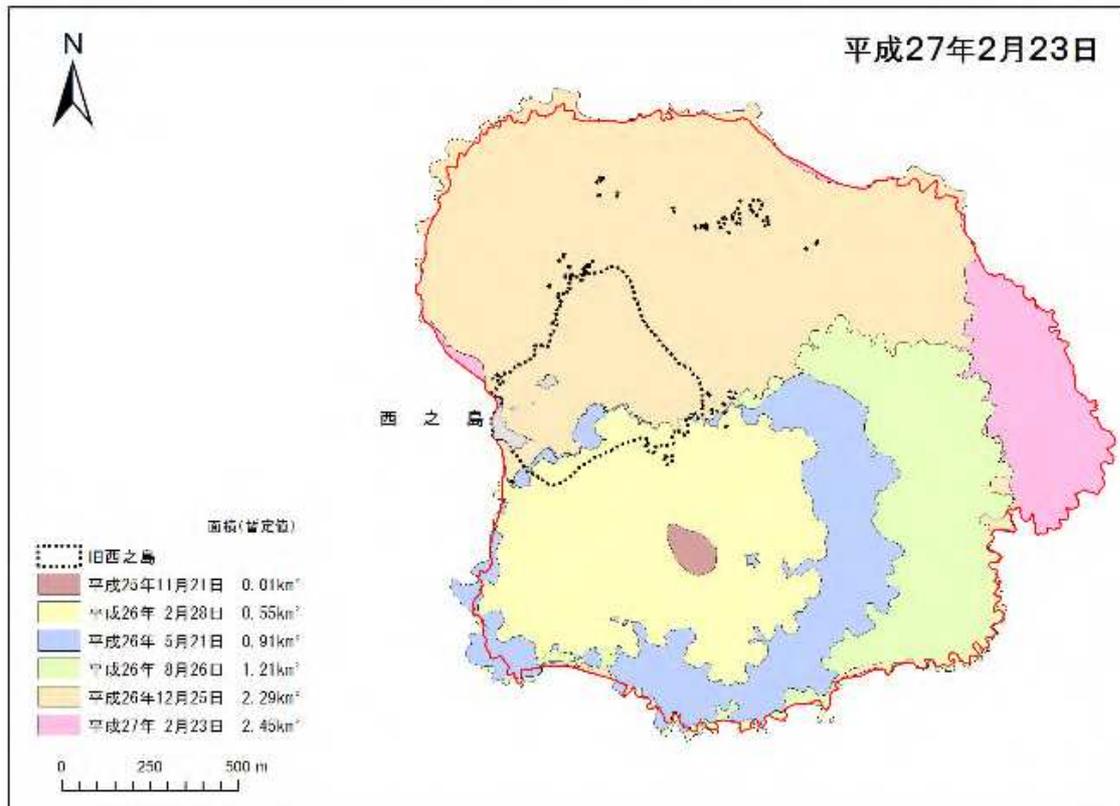


図5 西之島 面積変化図(海上保安庁作成)